



2026年5月8日

各 位

会 社 名 カップ・クリエイト株式会社
代表者名 代表取締役社長 山角 豪
(コード番号 7421 東証プライム)
問合せ先 取 締 役 福谷 史郎
経営戦略本部長
(TEL 045-224-7095)

減損損失の計上、業績予想と実績との差異及び

個別実績と前期個別実績との差異並びに当期の配当(無配)に関するお知らせ

当社は、2026年3月期において、減損損失を計上することとなりましたのでお知らせいたします。また、2025年5月9日に公表いたしました2026年3月期の通期連結業績予想と本日公表の実績値、及び2026年3月期個別実績と前期個別実績につきまして、差異が生じたことと、当期の配当につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上について

収益性改善に向けた取組みを進める一方で、原材料・エネルギー等の価格高騰による業績への影響を踏まえ、将来の収益性を慎重に検討した結果、当社グループが保有する店舗等に係る固定資産の一部について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき回収可能性を検討した結果、当第4四半期連結会計期間に国内85店舗・海外2店舗及び国内1工場に対し減損処理を行い、減損損失7億15百万円を計上することといたしました。

2. 通期業績予想と実績との差異

(1) 2026年3月期通期連結業績予想と実績との差異(2025年4月1日~2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 80,118	百万円 1,951	百万円 1,901	百万円 1,444	円銭 29.28
実績値(B)	73,193	532	592	△394	△7.99
増減額(B-A)	△6,924	△1,418	△1,308	△1,838	
増減率(%)	△8.6	△72.7	△68.9	—	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	73,208	1,433	1,467	1,032	20.77

(2) 通期連結業績予想と実績との差異の理由

2026年3月期連結業績において、戦略商品の磨き込み及び価格・価値の訴求を基盤に、ブランド認知向上を含めた様々なプロモーション活動や従業員育成による店舗運営力の向上に取り組んでまいりました。各種サービスや商品の開発及び拡大によって一定の効果を上げたものの、物価高騰に伴う消費者の節約志向ならびに、厳しい選択眼や多様な価値観への取組みについての効果が想定した水準に達しなかったため、売上高は前回発表予想に対し6,924百万円の減少となりました。

利益面につきましても、店舗オペレーションの改善や各種コストの最適化に取り組んでまいりましたが、売上高が計画を下回ったこと及び原材料・エネルギー価格の高止まりや人件費の高騰などもあり、営業利益・経常利益ともに前回発表予想を下回る実績となりました。さらに、収益性改善に向けた取組みを継続する一方で、原材料・エネルギー等の価格高騰による業績への影響を踏まえ、将来の収益性を慎重に検討した結果、前述の通り減損損失を計上したことから、当期純利益も前回発表予想を下回る実績となりました。

3. 2026年3月期個別実績と前期個別実績との差異

(1) 2026年3月期個別実績と前期個別実績との差異(2025年4月1日~2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前期実績(A) (2025年3月期)	59,311	1,478	1,401	1,155	23.27
当期実績(B) (2026年3月期)	57,805	639	591	△380	△7.72
増減額(B-A)	△1,506	△839	△810	△1,536	
増減率(%)	△2.5	△56.8	△57.8	—	

(2) 個別実績と前期個別実績との差異の理由

当社では、2026年3月期において、戦略商品の磨き込み及び価格・価値の訴求を基盤に、ブランド認知向上を含めた様々なプロモーション活動や従業員育成による店舗運営力の向上に取り組んでまいりました。各種サービスや商品の開発及び拡大によって一定の効果を上げたものの、物価高騰に伴う消費者の節約志向ならびに、厳しい選択眼や多様な価値観への取組みについての効果が想定した水準に達しなかったため、売上高は前期に対し1,506百万円の減少となりました。

利益面につきましても、店舗オペレーションの改善や各種コストの最適化に取り組んでまいりましたが、売上高が計画を下回ったこと及び原材料・エネルギー価格の高止まりや人件費の高騰などもあり、営業利益・経常利益ともに前期を下回る実績となりました。

さらに、収益性改善に向けた取組みを継続する一方で、原材料・エネルギー等の価格高騰による業績への影響を踏まえ、将来の収益性を慎重に検討した結果、前述の通り減損損失を計上したことから、当期純利益も前期を下回る実績となりました。

4. 当期の配当について

当社は、財務体質と経営基盤の強化を図りながら、株主の皆様へ安定的かつ継続的な利益還元を行うことを基本方針としております。

しかしながら、前述の減損損失の計上や通期業績予想との差異などを踏まえ、誠に遺憾ではございますが、2026年3月期の期末配当予想について無配とさせていただきます。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、復配できるよう努めて参りますので引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上